

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																															
長野平青学園	平成4年12月8日	鈴木 詩郎	〒 380-0918 (住所) 長野市アークス1-31 (電話) 026-224-8383																															
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																															
学校法人平青学園	平成4年12月8日	鷲澤 幸一	〒 380-0918 (住所) 長野市アークス1-31 (電話) 026-224-8383																															
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																													
工業	工業専門課程	ICTシステム・デザイン科 モバイルアプリコース	平成26(2014)年度	-	令和4(2022)年度																													
学科の目的	本学科は、学校教育法に基づき工業分野の専門課程を設置し、高等学校における教育の基礎の上に立って、情報処理・デザイン・電気分野に関する専門的な技術、技能及び知識を修得し、社会に貢献できる人材の育成を図ることを目的とする。また、生涯教育の推進を図るため、科目履修生等を積極的に受け入れ、社会貢献に寄与する。																																	
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	基本情報技術者試験、ITパスポート、ビジネス能力検定 B検ジョブパス、Webクリエイター能力認定試験(スタンダード・エキスパート)、ビジネス著作権検定など																																	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																											
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 65 単位	59 単位	0 単位	6 単位	0 単位	0 単位																											
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)																															
50 人	44 人	0 人	0 %																															
就職等の状況	<table border="1"> <tr><td>■卒業生数(C)</td><td>16</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職希望者数(D)</td><td>16</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職者数(E)</td><td>15</td><td>人</td></tr> <tr><td>■地元就職者数(F)</td><td>15</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職率(E/D)</td><td>94</td><td>%</td></tr> <tr><td>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)</td><td>100</td><td>%</td></tr> <tr><td>■卒業者に占める就職者の割合(E/C)</td><td>94</td><td>%</td></tr> <tr><td>■進学者数</td><td>0</td><td>人</td></tr> <tr><td>■その他</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>(令和4年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和4年度卒業生) IT企業・ソフトウェア産業・デザイン会社・印刷業・広告代理店・製造業ほか</p>						■卒業生数(C)	16	人	■就職希望者数(D)	16	人	■就職者数(E)	15	人	■地元就職者数(F)	15	人	■就職率(E/D)	94	%	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	100	%	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	94	%	■進学者数	0	人	■その他			
■卒業生数(C)	16	人																																
■就職希望者数(D)	16	人																																
■就職者数(E)	15	人																																
■地元就職者数(F)	15	人																																
■就職率(E/D)	94	%																																
■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	100	%																																
■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	94	%																																
■進学者数	0	人																																
■その他																																		
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: _____ 受審年月: _____ 評価結果を掲載したホームページURL _____</p>																																	
当該学科のホームページURL	<a href="https://www.heisei.ac.jp/dept/system-mobile/">https://www.heisei.ac.jp/dept/system-mobile/</a>																																	
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>2,220 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>270 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>2,010 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>420 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>60 単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>単位</td></tr> </table>						総授業時数	2,220 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	270 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間	うち必修授業時数	2,010 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	420 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	60 単位時間	総授業時数	単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	単位	うち必修授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位
総授業時数	2,220 単位時間																																	
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	270 単位時間																																	
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間																																	
うち必修授業時数	2,010 単位時間																																	
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	420 単位時間																																	
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間																																	
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	60 単位時間																																	
総授業時数	単位																																	
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位																																	
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位																																	
うち必修授業時数	単位																																	
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位																																	
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位																																	
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位																																	
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>1 人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>1 人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>2 人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <p>1 人</p>						① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	1 人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0 人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0 人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	1 人	計	2 人																
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	1 人																																	
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0 人																																	
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人																																	
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0 人																																	
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	1 人																																	
計	2 人																																	

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針  
教育課程編成委員会における本校設置学科に係る企業・団体及び教育関係者からの意見・要望を元に、社会の情勢、卒業後の就職先業界企業のニーズ、入学学生のウオンツを考慮した教育課程を編成する。また、職業教育・技術教育を行う教育機関として、また教養を高める場としての人間力育成という専修学校本来の教育課程の実施についても、実践力育成に傾注し、実習・企業と  
(2)教育課程編成委員会等の位置付け  
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記  
別紙当学園組織図のように教育課程編成委員会を、学校の教育課程決定における重要諮問機関と位置づける。  
教育課程編成委員会で提言された意見を基に本校教務会では教育課程改善案を立案し、教育課程運営委員会へ提出する。教育課程運営委員会では教育課程改善案をまとめ、教育課程編成委員会に提案し承諾を得る。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年7月1日現在

名前	所属	任期	種別
奥山 哲	カシヨ株式会社	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日	①
青柳 和男	株式会社ケイケン 長野県情報サービス振興協会 理事(元会長)	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日	①
吉川 満則	株式会社電算	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日	①
相馬豊恒	学校法人平青学園 専務理事	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日	—
鈴木詩郎	学校法人平青学園 校長	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日	—
荒井秀一	学校法人平青学園 副校長	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。  
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (10月、2月)

(開催日時(実績))

第19回 令和4年11月7日 10:00～12:00

第20回 令和5年3月24日 13:30～15:30

0

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

・幅広い言語を浅く学ぶのでなく、1つの言語を深く学んだ人の方が社会にでてから伸びるとの意見から、学ぶ言語を絞り、深く学べるようにカリキュラムを見直した。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

職業教育は実践力の向上を重視し、出来る限り関連企業との連携、現場での実習を取り入れる。学生の自主的な参加を醸成するようシラバスを作成し、実施する。また、授業後においては学生の学習内容・授業目標の到達度を検証し、次回の授業内容のさらなる改善に努める。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

・講義・演習・実習科目において実践経験豊富な実業者に外部講師派遣依頼し、授業内容により実践的な教育及び指導を加味して

いただいております。評価においては各期末における試験及び授業態度等を含めて外部講師に委託をしています。  
 ・1年次: 関連企業におけるインターンシップ(1~2週間)を実施。すべての学生のインターンシップにおける状況・成果物をもとに、受け入れ先担当者により評価を受けている。

・クライアントとのコミュニケーションの中でデザイン作品・プログラムを制作する企業委託授業の実施

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
アルゴリズム総論&演習 プログラミング概論 &演習α	コンピュータ処理の流れの考え方を学び、プログラムの基礎を修得する。	有限会社 ケー・アンド・エフコンピュー
プログラミング概論&演習β モバイルアプリ実習b	モバイルコンピュータ処理の流れの考え方を学び、HTML5を使ったアプリ制作の基礎を修得する。実習を通して、プログラムを作成する能力を高める。修得効率UPのために、講義の途	株式会社 電算
デジタルフォト概論&演習 デジタルフォト応用論&	クリエイターに求められる写真、動画の知識、デザインにおける写真の役割を、撮影の実習を通して学ぶ。	有限会社 スタジオ エフ
インターンシップ	就業体験を通して個々のキャリア意識の醸成と、就職活動に先立ち、企業人意識の向上(ビジネスマナーの実践)をはかる。	関連企業11社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

関連業界の変化、就職先企業の期待する人材像を教育課程に反映させるために、教員は常に関連する知識・技術の習得に努める。学園は、教員の知識及び技術の習得に関して研修等への参加を就業規則第22条において規定している。

・学内研修 教務会等を利用して研修時間を設定

・学外研修 関係諸団体、関係企業が提供する研修セミナーへの参加(教務会等で共有化を図る)

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	プログラミング初学者向けの授業運営の工夫	連携企業等:	paizaラーニング
期間:	2022年11月21日(月)19:00~20:00	対象:	教員
内容:	DX人材育成の教育現場での対応方法		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	新任教員基礎研修	連携企業等:	全国専門学校教育研究会 校運営部会
期間:	2023年3月14日~3月15日	対象:	新人教務
内容:	新任教員のための基礎教育		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	知識定着と思考・判断・表現力育成の両立について~ICT先進校のツール活用実践事例を踏まえて~	連携企業等:	モノグサ株式会社
期間:	2023/7/29(土)	対象:	教務責任者
内容:	elaarningの活用法		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:		連携企業等:	
期間:		対象:	
内容:			

研修名:		連携企業等:	
期間:		対象:	
内容:			

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

・学校関係者評価・学校自己評価運営委員会を設置し、それぞれの評価に基づき学園運営・教育内容・教育に関わる体制など、常に自己チェック体制を維持し、よりよい学園運営のための改善に努めるものとする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教職員・学生等への教育理念等の周知徹底 学外への教育理念等の公表 社会・学習者のニーズに応えるための定期的な点検と見直し
(2) 学校運営	理事会・評議員会の定期開催 運営会議の定期開催 学校評議員会の定期開催 学則・諸規定の整備と、点検・見直し 学校安全保健計画の作成
(3) 教育活動	修業年限分のカリキュラムの文書化 カリキュラム作成委員会の有無 外部関係者(業界・高校)のカリキュラム編成メンバー構成 シラバスと講義要項の作成と、事前の学生への提示 学生による授業評価の実施 授業評価結果に基づく教員面接・授業参加・研修の実施 職場実習(インターンシップ)の実施 キャリア教育の実施 コミュニケーション能力育成の実施 成績評価・単位認定基準の明文化と学生への周知徹底 企業・地域・行政との連携 教職員の内部研修の実施 外部研修への派遣と自己啓発への時間的・財政的な支援の実施
(4) 学修成果	学生の就職に関する目標の設定と教職員の共有 就職活動の結果の検証と報告の実施 外部への就職実績の公表 資格・検定・コンペに関する目標の設定と教職員の共有 資格・検定・コンペに関する結果の公表 卒業率の目標の設定と教職員の共有
(5) 学生支援	担任・担当者による定期的な面談の実施 学生指導に関する教職員の体制の有無 学生の健康管理・メンタルヘルスについての相談者の有無 定期的な健康診断の実施 奨学金制度等の経済的な支援の有無 保護者との相談会・面談の定期的な実施 求人開拓活動の実施 卒業生就職先への訪問 高校等との連携によるキャリア教育・職業教育の実施
(6) 教育環境	普通教室・実習室等の施設・設備の整備 施設・設備の定期的な保守管理の実施 学内の整理整頓。清掃に関する定期的なチェック 図書室等の設置と適切な運用 学校年間スケジュールの有無と学生への提示 防災・防犯・非常時の対応マニュアルの作成と徹底 危機管理マニュアルの作成と徹底
(7) 学生の受入れ募集	学校案内への育成人材像の明示 学校案内での資格取得・就職状況の正確な記載 学校案内での学費・教材費等の明示 学校案内での選抜方法の明示

(8)財務	年度予算・中期計画の策定 予算執行の定期的な確認 会計監査他体制の明確化 会計監査結果の文書での明確化 私立学校法に基づく財務情報公開体制の整備
(9)法令等の遵守	個人情報保護・ハラスメント規定が整備と、学生・保護者・教職員への周知 組織内の体制整備・点検の実施 自己評価結果の問題点改善への取り組み 自己評価結果の公表
(10)社会貢献・地域貢献	地域貢献を目的とした公開講座の実施 教育資源の地域社会への提供 学生の社会的活動の評価・単位認定の有無 教育訓練の受託
(11)国際交流	留学生受け入れのための体制整備と適切な手続き 留学生数・在籍管理状況の把握 留学生への相談体制の整備

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

- ・学校情報の発信不足の指摘を受け、ホームページを見直すのと同時に、SNSを利用した学校情報の発信などを開始した。
- ・就職状況だけでなく、就職後の卒業生の就業状況の把握もすべきという意見を受け、就職担当者の卒業生就職先訪問を実施するようになった。
- ・学生のメンタルヘルス健全化への意見を受け、外部のカウンセラーによる相談制度を設けた。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任 期	種 別
夏目 潔	株式会社夏目	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日(2年)	学外
鷺澤 幸一	炭平コーポレーション株式会社	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日(2年)	学外
竹村 勝年	株式会社竹村製作所	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日(2年)	学外
竹前 義孝	協同組合長野アークス	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日(2年)	学外
倉田 浩	富士印刷株式会社	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日(2年)	学外
谷 憲昭	長野市薬剤師会	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日(2年)	学外
小林 博昭	公益社団法人 長野市歯科医師会 会長	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日(2年)	学外
篠原 祐	炭平コーポレーション株式会社	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日(2年)	学外
上野 純	タイガー情報機器株式会社	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日(2年)	学外
市村 真一		令和5年4月1日 ～令和7年3月31日(2年)	卒業生
苅間 敬子	長野アークス	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日(2年)	卒業生
小林 妃世希		令和5年4月1日 ～令和7年3月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )

URL: <https://www.heisei.ac.io/outline/pdf/hvouka.pdf>

公表時期: 45108

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等との連携にあたり、当学園の理解を基本とし、連携が企業と学園の共通の認識のもとになされ、学生の育成により有効に機能するべく努める。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	校長名・所在地・連絡先 学校の沿革 学校の特色 教育目標・教育方針 教育指導計画
(2)各学科等の教育	定員数・入学者数・在校生徒数 カリキュラム 進級・卒業の要件 取得を目指す資格・合格を目指す検定 資格・検定合格の実績 卒業研究の内容 卒業者数・卒業後の進路
(3)教職員	教職員数・教職員の組織
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取り組み状況 就職支援等への取り組み状況 コミュニケーション能力育成の取り組みの状況
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事への取り組み状況 家庭・地域・企業等との連携による取り組み状況
(6)学生の生活支援	学外奨学金の説明・申請支援 学園独自の奨学金・制度
(7)学生納付金・修学支援	入学金・学費・教科書・教材費等
(8)学校の財務	貸借対照表
(9)学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )

URL: <https://www.heisei.ac.jp/outline/ihokoukai.php>

公表時期: 45108

授業科目等の概要  
(工業専門課程 ICTシステム・デザイン科 モバイルアプリコース) 令和5年度

分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次学期	授業コマ数	授業時数	単位数	授業方法		場所		教員		企業との連携
										講義	演習	校内	校外	専任	兼任	
○				Webプログラミング総論&演習	HTML、CSSの使い方基礎の学習と演習	1前	30	60	2	○	△	○		○	○	○
○				情報処理基礎[ITパスポート]	コンピュータの基礎知識と開発手法	1前 1後	30 30	60 60	2 2	○ ○	△ △	○ ○		○ ○	○ ○	
	○			IT研究開発	研究開発の手法、プレゼン、論文の作り方	2後	30	60	2	○	△	○		○		
○				プログラミング概論&演習α[Java基礎]	プログラミングの基礎的事項の習得	1前	30	60	2	○	△	○		○	○	
○				プログラミング概論&演習β[Java応用]	プログラミングの応用、オブジェクト指向プログラミング	1後	30	60	2	○	△	○		○	○	
○				プログラミング概論&演習γ1[C#基礎]	C#言語の基礎の学習と演習	1後	30	60	2	○	△	○		○	○	○
○				アプリ開発論&演習α[monaca&cloud]	ハイブリッドモバイル向けアプリ開発の講義と演習	1後	30	60	1	○	△	○		○	○	
○				アプリ開発論&演習β[Android]	AndroidOS向けアプリ開発の講義と演習	2前	30	60	2	○	△	○		○	○	
○				コンピュータ概論基礎[IPA基本情報①]	コンピュータの基礎的な理論を学ぶ	1前	45	90	3	○	△	○		○	○	
○				コンピュータ概論応用[IPA基本情報③]	開発技術、企業戦略、法務関連知識を習得する	1後	45	90	3	○	△	○		○	○	
○				アルゴリズム総論[IPA基本情報②]	プログラム組み立てに必要な考え方の習得	1前	30	60	2	○	△	○		○	○	
○				プログラム基礎[JS]	スクリプト言語を用いたのプログラム基礎の習得	1前	15	30	1	○	△	○		○	○	○
○				ラスタグラフィック総論&演習	ラスタ画像加工の基礎技術を修得	1前	30	60	2	○	△	○		○	○	○
○				CMS構築[WordPress]	WordPressを使ったWebページの基礎理論と構築演習	2前	30	60	2	○	△	○		○	○	○
○				Web概論&演習[Webデザイナー検定&上級]	HTML、CSSの使い方応用の学習と演習	1後	30	60	2	○	△	○		○	○	
○				IoT総論&実践	パソコンのハードウェア基礎知識の修得	2前	30	60	2	○	△	○		○	○	
○				データサイエンス	データサイエンスの基本となるデータ収集、分析手法の学習	2前	30	60	2	○	△	○		○	○	
○				ネットワーク概論	インターネットを活用したネットワーク構築技術の修得	2前	15	30	1	○	△	○		○	○	
○				サーバープログラミング演習[PHP]	サーバーサイドプログラムの講義と演習	2前	30	60	1	○	△	○		○	○	○
○				システム開発総論[Access]	システム設計工程についての講義と演習	2前	45	90	3	○	△	△	○		○	○
○				ゲームプログラミング[Unity]	ゲームプログラムの手法と3D、VR理論の講義	2前	30	60	1	○	△	○		○	○	
				ロボットアプリ[Python]	ロボットアプリの理論と演習	2前	30	60	2	○	△	△	○		○	
○				ハードウェア総論&実践[Raspberry Pi]	組立実習を通してパソコンの構造を理解する	2前	30	60	2	○	△	△	○		○	○
○				プログラムワークショップ[コンテスト]	プログラム開発のポイントを学び、開発の過程を実習する	2後	45	90	3	○	△	△	○		○	
○				卒業研究	学習成果をもとにテーマを設定して研究に取り組む	2後	180	360	6			○	○		○	
		○		インターンシップ	仕事に触れることで今後の課題を明確にし、社会人として自立するための体験学習	1通 2通	15 15	30 30	1 1			○	○		○	○
		○		企業研修	学習関連分野連携企業及び就職内定企業において実務経験実習を行う	2後	105	210	3			○	○			○
○				コミュニケーション基礎	自己を見つめ、自己の持ち味・価値観を築く	1前	15	30	1	○	△	○		○	○	
○				コミュニケーション応用	他者を容認し、必要な自分になるための行動力を培う	1後	15	30	1	○	△	○		○	○	
	○			ライフプランニング	将来に向けて生活設計に必要な知識を学ぶ	2後	15	30	1	○	△	○		○	○	
○				EQコミュニケーション	EQに気付き、関心を持ち、前向きな生活を送る姿勢を考える	2前	15	30	2	○	△	○		○	○	
○				プレゼンテーション基礎講座	発表技法を企画からPC操作まで総合的に学ぶ	1後	15	30	1	○	△	○		○	○	
○				パソコン基礎[Excel]	ビジネスに必要な表及び計算式の作成技法を学ぶ	1前	15	30	1	○	△	○		○	○	
○				ビジネス実務A	ビジネス常識、情報活用など基本知識を修得1	1前	15	30	1	○	△	○		○	○	
○				ビジネス実務B	ビジネス常識、情報活用など基本知識を修得2	1後	15	30	1	○	△	○		○	○	
○				ビジネス著作権	ビジネスで必要とされる著作権の基本	1後	15	30	2	○	△	○		○	○	
		○		基礎学習講座 ※留学生以外必修	基本的な人文・社会・自然科学分野の学習	1後 2前	15 15	30 30	1 1	○ ○	△ △	○ ○		○ ○		
		○		日本語聴解・読解 ※留学生のみ必修	日本語の聴解、読解の学習	1通 2通	30 30	60 60	1 1	○ ○	△ △	○ ○		○ ○		
○				就職支援講座	就職目標の設定・職業理解・就職活動スキルの学習	1通	30	60	2	○	△	○		○	○	○
合計						35	科目	2220	単位時間	71		単位				

※1時間は90分授業で実施しているので、授業時数欄及び合計欄は、1単位時間(50分)に換算

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	15週

修業年限が2年以上で、認定単位数65単位以上。